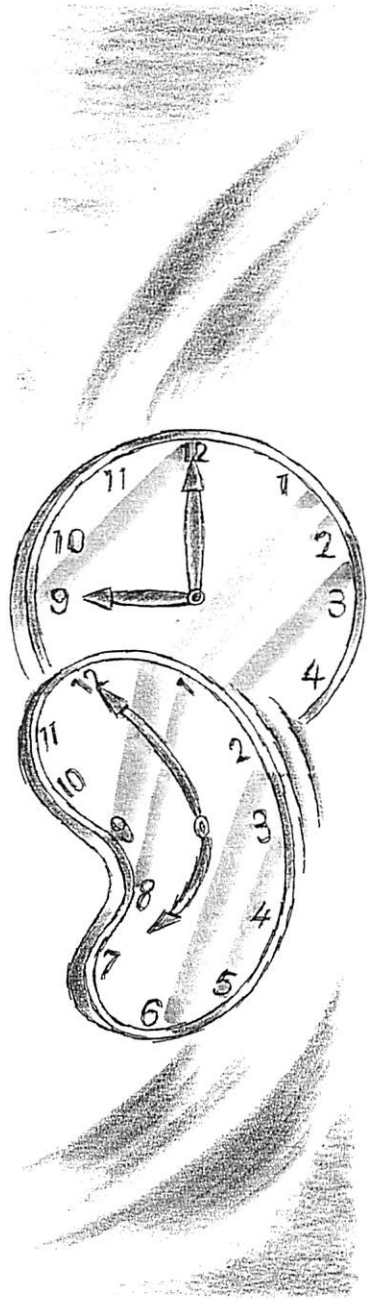
ほけん室のベッドで目をつむっていると、何だかさびしくなってきました。そして、けさのお母さんの悲しそうなようすが、目にうかんできました。

何だか、今の自分がとっても悲しくなってきました。



２　家　族

わたしの家族は六人です。

お父さんとお母さんはつとめていますが、おじいちゃんとおばあちゃんは、いつも家にいます。弟もいるので、わたしは、さびしい思いをしたことはありません。

「ただいま。おばあちゃん、おやつは。」

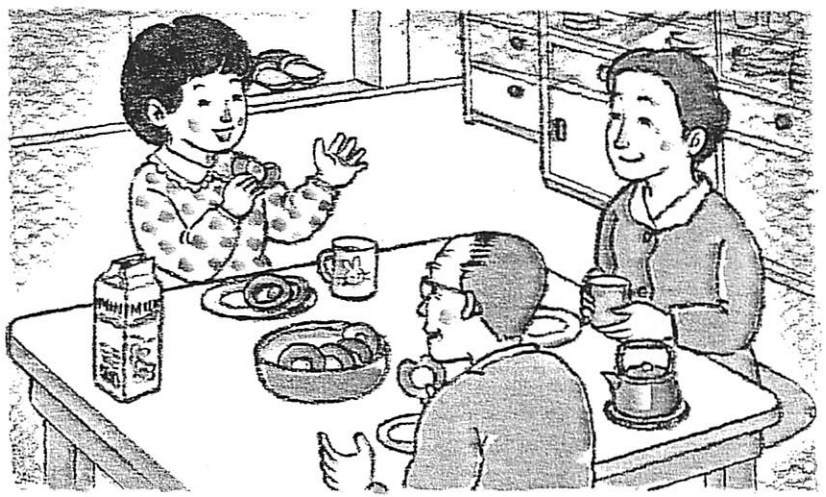
「おかえり。今日のおやつはドーナツよ。」

おばあちゃんは、わたしの好きなおやつをこしらえて、わたしが帰ってくるのを待ってくれているのです。そして、おやつを食

べながら、学校のできごとを話すわたしを、おじいちゃんとともに、満足そうに見守っています。

おばあちゃんは、せんたく、そうじ、夕食づくりも、お母さんを手伝っています。夕食は、おいしく、喜こんで食べられるようにと、きれいにもりつけを工夫してあります。

「このじゃがいもは、うちの畑で作ったものよ。思いがけないほどよいできばえでね、たくさんとれたのよ。」



「おじいちゃんとおばあちゃんのあせのけっしょうなんだよ。ようく味わって食べてごらん。」

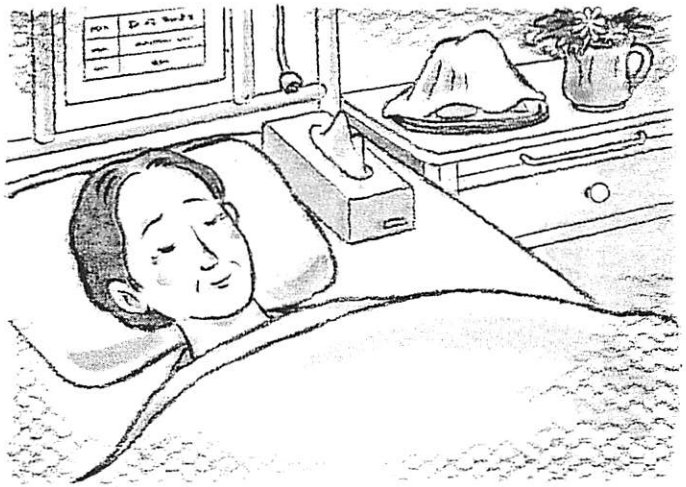
「うわあ、すごくおいしいよ。自家せいの味は最高だよ。」

「ありがとう。来年もがんばって、たくさん作るからね。みんながよろこんで食べてくれるから、作るはり合いがでてくるわ。」

一つのテーブルをかこんで、家族全員がそろって食べる夕食は、一日中で、いちばん楽しいときなのです。

ところが、さくらの花が満開になるころ、おばあちゃんが病気になり、入院することになりました。

お父さんとお母さんは、いそがしそうに入院のじゅんびをすると、おばあちゃんを病院へ送って行きました。家にのこった、わ



たしと弟とおじいちゃんの三人は、
「おばあちゃん、だいじょうぶかな。
早く帰ってほしいな。」
「すぐにたい院できるよ。」
と、話し合いながらも、おじいちゃんは、元気をなくしています。
その日の夜のことです。
お母さんは、わたしと弟に、わたしたちが小さかったころの話をしてくれました。

「はる子が生まれたときも、としおが生まれたときも、家族中が大よろこびしたのよ。おばあちゃんはね、はる子にも、としおにも、やさしく元気に育つようにと、きれいな花はかざるし、ミルクは飲ませてくれるし。おんぶやだっこも、おじいちゃんときょうそうするようによくしてくれたものよ。」
お母さんの話を聞きながら、わたしは、幸せいっぱいの気分になっていました。「わたしが少し大きくなると、保育所(ほいくしょ)への送りむかえもしてくれたな。かくれんぼや虫とりなども。」楽しい思い出は、おじいちゃんやおばあちゃんにつながるものでいっぱいです。
そんなおばあちゃんの入院は、わたしの家族にとって、とても大きなできごとだったのです。

2　家　族

4―(3)　父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。(家族愛)

1主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

家族愛とは，親子の愛，兄弟姉妹の愛など血縁関係で結ばれた家族相互に自然に生まれてくる愛である。その愛情は，利己心に発するものでもなく，また報酬を期待するものでもない。

そこで，父母や祖父母が自分たちを思う愛情を当然のこととして受け取るのではなく，自分のためにどのように気を配ってくれ，どのようなことをしてくれているのかを子どもに理解させたい。そして，父母や祖父母に感謝するとともに，自分自身も家族の一員であるという自覚のもとにそれぞれの役割に応じて責任を果たし，明るく楽しい家庭を築こうとする意識を育てることが肝要である。

〈子どもの実態について〉

この時期の子どもにとって，父母や祖父母は自分たちのために働いてくれる人であり，様々な面で自分たちを保護し育ててくれる人であり，そして，何にもまして大切な存在である。この点を頭の中では分かっていながらも，家族への依存心が強く，その愛情を当然のことと感じているのが実状である。

そこで，父母や祖父母の日々の深い愛情に感謝するとともに，家族の一員としての立場を考えさせ，家族が協力することの大切さに気付かせたい。

〈資料について〉

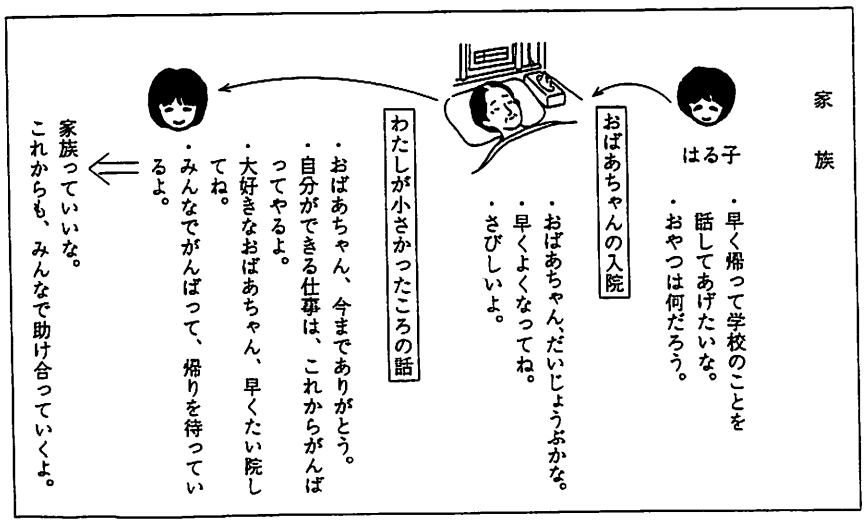
本資料の主人公はる子の家族は六人。勤めに出ている両親の他に優しい祖父母がいて，いつも温かく迎えてくれる。その祖母が病気で入院することになり，改めて祖母の存在の大きさに気付くという内容である。

温かく迎えてくれるのが当然だと感じていたはる子が，入院を契機に，深い愛情に感謝し，家族の大切さを改めて考え始めた。その主人公の心情に共感させたい。

2ねらい

父母や祖父母の深い愛情に感謝するとともに，家族の一員として尽くそうとする心情を育てる。

□板書



3展開

学　習　活　動	支援上の留意点
(1)　自分にとって家族はどんな意味をもっているかを話し合う。 ○　あなたは，家族をどのようなものだと考えていますか。 ・困ったときに，お互いに助け合うもの。 ・お互いに信頼し合うもの。	・　子どもがもっている漠然とした家族愛を出し，ねらいとする価値にかかわる意識をもつことができるようにする。
(2)　資料を読んで，はる子の考え方や行為について話し合う。 ①　はる子は，毎日どんなことを考えながら家に帰っているのでしょう。 ・早く帰っておじいちゃんやおばあちゃんに学校の出来事を話してあげたいな。 ・今日のおやつは何だろう。 ・私の帰りを今か今かと待ってくれているから，急いで帰らなくちゃ。	・　祖父母が待ってくれている居心地の良い家に早く帰りたいと思っているはる子の気持ちをとらえることができるようにする。
②　おばあちゃんが入院することになったとき，はる子の気持ちはどうだったでしょう。 ・入院しないといけないほど病気がひどいのかな。 ・おばあちゃん，だいじょうぶかな。 ・早くよくなって家に帰って来てよ。寂しいよ。	・　祖母が温かく迎えてくれるのが当たり前になっていたはる子の気持ちの揺れをつかむことができるようにする。
③　自分が小さかったころの話を聞いて，はる子はどう思ったでしょう。 ・小さい頃からおばあちゃんは私を大事にしてくれたのだな。 ・ありがとう，おばあちゃん。 ・いろいろわがまま言ってごめんね。 ・これからはもっと大事にするから，早くよくなってね。	・　祖母の深い愛情を強く感じているはる子の姿に気付き，祖母への感謝の気持ちを感じとることができるようにする。
④　はる子は，これからどうすると思いますか。 ・自分ができる仕事はきちんとやり，おばあちゃんに楽をさせてあげる。 ・病院にお見まいに行って，学校の出来事を話し元気づける。 ・家族みんなで力を合わせて助け合い，おばあちゃんが一日も早く安心して家に帰ってこれるようにする。	・　家族の一員としての自覚に目覚めたはる子の心情に共感することができるようにする。
(3)　自分たちの生活について振り返る。 ○　家の人に対して「ありがたいな。」と思ったことに，どんなことがありますか。 ・病気のとき，夜も眠らずに看病してくれた。 ・雨が降り出して困っていたとき，かさを届けてくれた。	・　家族に対しての感謝の気持ちを高めるとともに，今後の生活に生かせる手がかりとなるように助言する。 (心のノート　P74・75)
(4)　作文を聞く。 ○　友達の作文を聞きましょう。	・　子どもの日記や作文から望ましい事例を紹介し，実践意欲を高めることができるようにする。